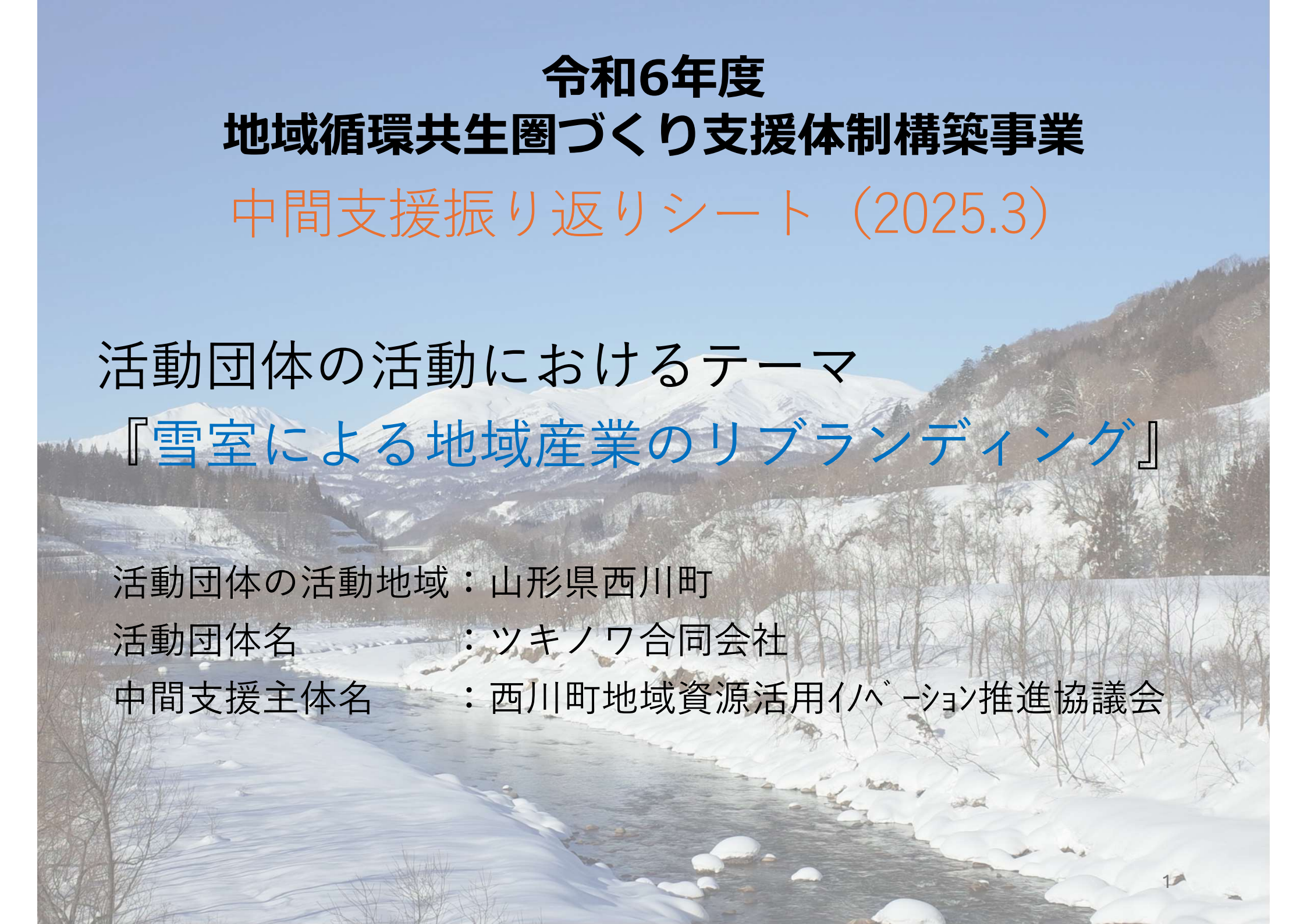


A scenic winter landscape with snow-covered mountains and a river. The background shows a range of mountains under a clear blue sky. In the foreground, a river flows through a snowy valley, with snow-covered banks and trees. The overall scene is peaceful and picturesque.

令和6年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 中間支援振り返りシート（2025.3）

活動団体の活動におけるテーマ 『雪室による地域産業のリブランディング』

活動団体の活動地域：山形県西川町

活動団体名：ツキノワ合同会社

中間支援主体名：西川町地域資源活用イノベーション推進協議会

活動計画（概要）

地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

西川町の最大の特徴であり最大の悩みでもある雪をサイトスペシフィックな資源として活用することで、地産製品の付加価値向上や地域独自のツーリズムにつなげる。これにより新たな仕事と収入源を確保すると同時に、地域全体の持続可能性を高めることを目標とする。

地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

地元の農家や醸造業者、食品加工業者、観光事業者などと連携することにより、各事業者のニーズを明らかにするとともに雪室の活用ポテンシャルについて議論する必要がある。その際にはまず先進事例の調査を行うとともに、本事業の独自性を的確に位置づけることが重要である。

ローカルSDGs事業として取り組む内容

- ・雪室による雪の資源化と除排雪コストやCO2排出の低減
- ・雪室ブランドの確立による製品の高付加価値化と競争力強化
- ・一年を通して雪を体験できる豪雪地ならではのツーリズム開発
- ・雪室を通じた多様なプレイヤーによる地域産業ネットワークの構築

地域の現状

人口減少と超高齢化が最大の課題であるが、近年の抜本的な取り組みにより改善傾向にある。これをさらに推し進めるためには、豪雪を資源としてポジティブに捉えるパラダイムシフトが求められる。

2026年度末の状態目標

- ・雪室が完成し運用可能な状態にあること。
- ・個々のステークホルダーやステークホルダー同士の協働において雪室を活用した具体的な事業が実施可能な状況にあり、かつ販路や顧客の開拓が進んでいること。
- ・事業全体をまとめる雪室ブランドが構築され、統一的なデザインのもとプロモーションできる状態にあること。

2025年度末の状態目標

- ・個々のステークホルダーと協働して雪室を活用した具体的な商品開発などのアイデアづくりが実施されていること。
- ・ステークホルダーの横のつながりにおける協働事業の可能性が検討されていること。
- ・雪室に求められる詳細条件を反映した建物の設計を完了していること。
- ・雪室の実現に必要な財源の確保ができていること。

2024年度末の状態目標

- ・現状よりも多くのステークホルダーを発掘し、かつステークホルダーとの連携ネットワークが構築されていること。
- ・雪室を活用したリブランディングの方針が共有されていること。
- ・雪室に求められる立地、規模、空間的プログラムなどの基本的な条件が整理されていること。

■見立て

- ・積極的な取り組み姿勢
- ・移住者としての視点（町のこれまでや地域性に縛られない発想）
- ・町施設の活用や町全体を考慮した設計とするには行政の力が不可欠
- ・地域住民との繋がりや西川ファンとの繋がりを仲介する必要性

■打ち手

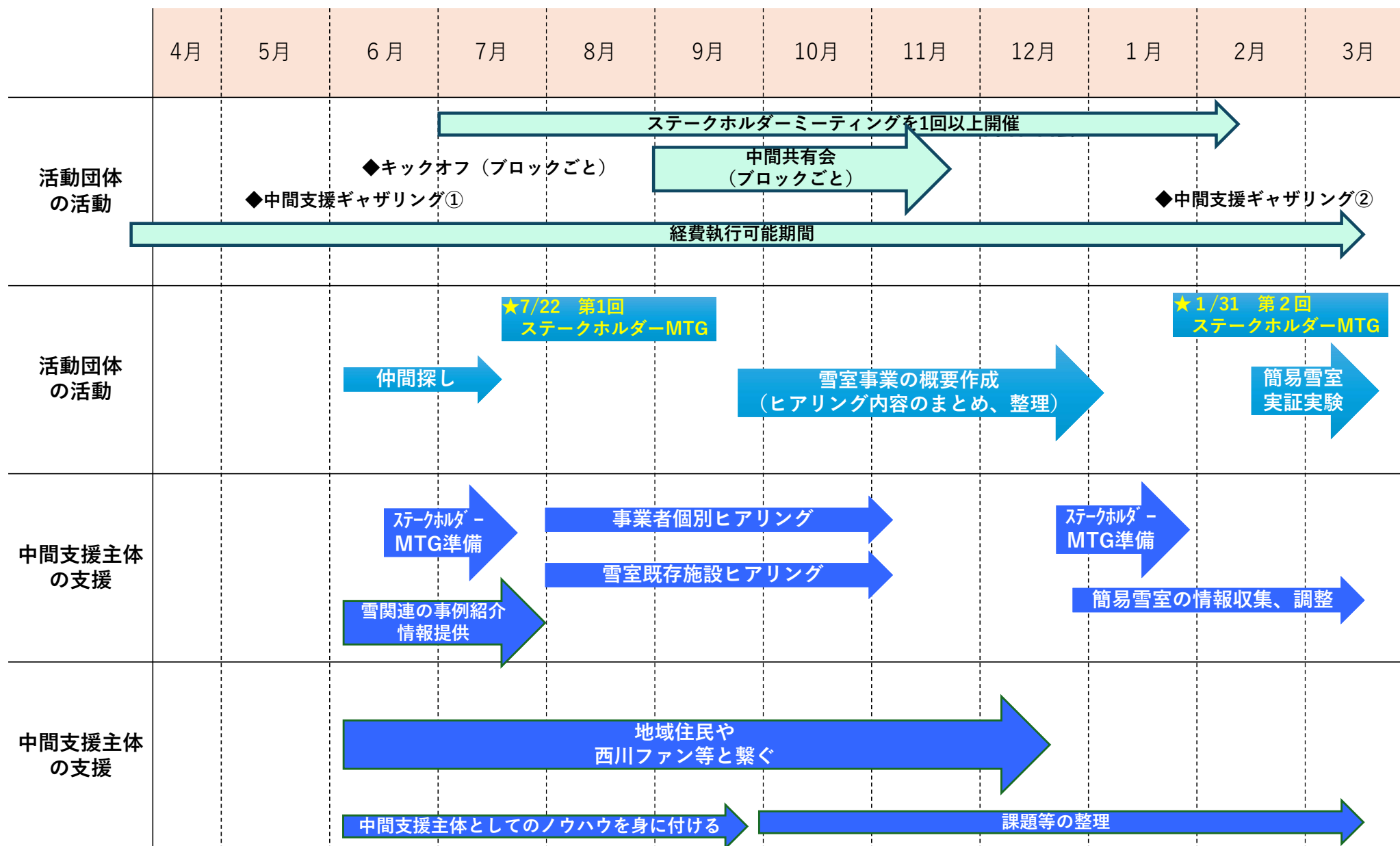
- ・課題の整理（壁打ち相手）
- ・地域住民や西川ファン等との橋渡し
- ・行政との調整

■中間支援機能の強化・振り返り

- ・活動主体の課題を一緒に整理したり、解決策を見つけたりするノウハウを身に付ける。
- ・どんどん広がる西川町の繋がりから適切な人材と結びつける感覚を磨く。
- ・中間支援主体として、住民や企業がやりたいことをやれる土壌とは何かを考えたい。

活動・支援のプロセスの振り返り

■R6年度活動・支援内容



活動・支援のプロセスの振り返り

■今年度、地域循環共生圏づくりのポイントとして注力したアクションサイクル①

仲間を探し、事業を生み出す！

ステークホルダーに想いを伝え、話を聞き、事業を共に考える

中間支援主体の支援

- 上記アクションサイクルの取組を活動団体が進めるにあたっての見立て
 - ・ 仲間づくりのための知名度や信頼感の向上
 - ・ アイディアや課題の整理と分析
- 具体的な支援内容（打ち手）
 - ・ 行政の立場を活かして、最初の繋がる機会をつくり、人を集める。
 - ・ 情報提供や打合せ
- 打ち手による活動団体の変化（意識・行動・活動の進捗）
 - ・ マンパワーを補う方針に変更したことで、活動主体と支援主体の間の信頼の構築
- 中間支援主体としての気づき・成長
 - ・ 分析等よりもヒアリングを手伝うなどのマンパワーを補う支援が必要であることが分かった。

活動団体の取組

- 活動名・時期
 - ・ ワークショップの開催と個別ヒアリング
 - ・ 令和6年7月22日、8月～10月
- なぜそれを実施したのか（実施目的）
 - ・ 仲間づくり と 新たなアイデアの創出
- 実施したことによって共生圏づくりにどのような変化が起きたか（活動団体自身の変化・周囲の変化等の共生圏づくりに関わる進捗）
 - ・ 様々な立場の参加者とながり、この計画に対する関心の高さを感じた。
 - ・ 具体的に活用を考えている事業者はいるが、『主体』と『活用方法』の関係が直線的なものが多く、広い視野で分野横断的な連携により高い相乗効果を生み出すようなアイデアを考えていく必要性を感じた。

活動・支援のプロセスの振り返り

■今年度、地域循環共生圏づくりのポイントとして注力したアクションサイクル①

事業を生み出す！

事例を学ぶ機会をつくり、事業計画を共有し、ともに考える。

中間支援主体の支援

- **上記アクションサイクルの取組を活動団体が進めるにあたっての見立て**
 - ・ 方向転換する中での今年度の着地点
- **具体的な支援内容（打ち手）**
 - ・ 無意識課題へのアプローチ
(EPO東北壁打ち内容の共有)
 - ・ モチベーション維持対策の必要性
- **打ち手による活動団体の変化（意識・行動・活動の進捗）**
 - ・ 多様な想定の上でWSの方針を決めることができた。
 - ・ ステークホルダーにとって、より良い着地点に近づいた。
- **中間支援主体としての気づき・成長**
 - ・ アイデア共有前と後で次の方針は変わらなかったが、より深い検討ができた。

活動団体の取組

- **活動名・時期**
 - ・ 第2回ワークショップの開催
 - ・ 令和7年1月31日
- **なぜそれを実施したのか（実施目的）**
 - ・ ステークホルダーの知識の底上げ
 - ・ 収集した情報をもとに実証プロジェクトの可能性を探る！
- **実施したことによって共生圏づくりにどのような変化が起きたか（活動団体自身の変化・周囲の変化等の共生圏づくりに関わる進捗）**
 - ・ 小規模に事業化する方針を取ったことで、継続して参加者を集めることができた。
 - ・ 講師の方からレクチャーを受けることで、自分たちにできることが具体的に見えた。

活動・支援のプロセスの振り返り

- （特に前2スライドの支援を実施するにあたり、）今年度、力を入れて取り組んだ中間支援は？（中間支援機能チェックリスト.xlsxより上位3つを選んで記入）

協働ガバナンスの項目	中間支援機能	項目（番号）	支援をしたタイミング等
チェンジエージェント機能	資源連結機能	(2)②③	ステークホルダーMTG時や専門家の話を聞きたいとき
チェンジエージェント機能	プロセス支援	(2)⑤	ステークホルダーMTG、個別ヒアリング時等
チェンジエージェント機能	変革促進機能	(1)⑫	2回のワークショップ開催時

● 共生圏づくりを進めるために、活動団体の能力をどう引き出せたか

- ・活動団体の積極性を活かし、段取りや周知等を支援することで、WSの企画立案、整理分析等の面で活動主体の能力は発揮してもらえた。
- ・町のつながりを活かし、活動主体の移住者によるつながりの途上部分を補い、ステークホルダーの輪を広げることができた。

● 中間支援主体として向上したと思う中間支援機能

- ・幅広く中間支援を行うことができた。
- ・壁打ちという新たな手法を学べた。
- ・行政の枠を少し広げた柔軟な中間支援（マンパワーを補う）

● R6課題だと感じたこと

- ・事業の成果に意識がいきがちになり、さらなる成長への意識が薄くなる。
- ・支援主体の人材育成（主担当以外も関わることで、さらなる成長が見込める）

地域循環共生圏づくりに向けた次のアクション

- 地域循環共生圏づくりのために、どのような中間支援機能を発揮できるか。R7～中間支援主体として今後どのようなになりたいか。

- ・活動主体が見えていないところ、第3者視点、多様な視点での助言や意見を提供できるよう、壁打ちをうまく使えるようになりたい。

- ・中間支援を担える人材の育成をしていきたい。

- 活動団体がアクションサイクルを回せるようにするための次年度の見立て・打ち手（具体的な支援策）

＜＜見立て＞＞

①方向転換への対応

②地区ごとの魅力発掘のため、地道なステークホルダーとの対話が必要

＜＜打ち手＞＞

①既存の情報と資源と必要な情報、資源の整理することを促す。

②特性を考慮した地域の人物との繋がる機会の創出

- 地方・全国事務局にサポートしてもらえると嬉しいこと

- ・中間支援機能の説明、整理をもう少しわかりやすくしてほしい。

- ・中間支援機能を新たに取得することや伸ばすことのほかにも、既已取得している中間支援機能を適切に発揮していることにもフォーカスしてもらえると、しっかり中間支援できている自信につながると思う。